

1. 琵琶湖周辺を吹く風

琵琶湖周辺にはどのような風が吹いているのでしょうか。気象庁の統計データ（平年値）によれば1990年～2010年の彦根の年間最多風向は北西となっています。2017年の最多風向は北北西となっており、北西風が多いことがわかります。しかし、風には様々な原因で生じる風があり、冬の西高東低の気圧配置となれば北寄りの風が吹き、日本海を低気圧が発達しながら通過するときには南から低気圧に向かって風が吹きます。こうした総観規模の気圧配置により生じる風が弱く、高気圧に覆われた晴れた日には、地形や地表の違いによって生じる局地風が生まれます。局地風には海陸風や山谷風などがあります。琵琶湖周辺では湖陸風という風がよく知られています。

2. 湖陸風

夏を中心とした晴天の日、湖岸付近では、日中、陸が早く暖まり、湖上の温度が低くなるため湖から陸へ向かって風が吹きます（湖風）。夜間は陸の方が早く冷えるため陸から湖に向かって風が吹きます（陸風）。南小松の2017年7月30日のアメダス観測値を見てみましょう（図T-1）。日照とともに気温が上がるにつれて東寄りの風が吹き始め、15時くらいまで琵琶湖から風が吹いています（湖風）。また、夕方以降は西寄りの風（陸風）になっていることがよくわかります。データとして南小松を紹介しましたが、湖東では、日中は琵琶湖から陸に向かう湖風となるため西寄りの風が

時	気温	風速	風向	日照時間
7	27.1	0.5	西南西	0.2
8	27.9	0.9	南南東	0
9	29	2	南南東	0.3
10	28.5	1.8	東南東	0.8
11	29.5	2.5	東南東	0.9
12	29.7	2.2	東南東	0.6
13	29.9	2.2	東	0.5
14	30.7	1.5	東北東	0.4
15	31.5	1.2	東	0.4
16	30.5	0.6	北北西	0.1
17	31.7	0.2	静穏	0.3
18	31.1	1	北北西	0.2
19	30.2	1.6	西	0
20	29	1.1	西	
21	27.3	0.5	西南西	
22	27.4	1.5	西北西	
23	27.8	0.5	西北西	

図T-1 南小松（2017年7月31日）
気象庁 各種データ・資料より転載

吹き、夜間は東寄りの陸風が吹くことになります。風速は図T-1からわかるとおり一般に湖風の方が陸風よりも強く吹きます。

3. 近江小太郎

古来、人々は自然を擬人化して呼ぶことがあり、河川や山などの地形や雷雲などにも名前を付けて語り継いできました。京都では丹波地方から南に移動してくる雷雲を丹波太郎、奈良盆地から北に移動してくる雷雲を山城次郎と呼んでいます。さらに、滋賀県湖西地方の琵琶湖付近から比叡山を超えて京都に入ってくる雷雲は比叡三郎と呼ばれています。この比叡三郎を近江の人々は、近江小太郎と呼んできました。近江小太郎は、琵琶湖が生んだ局地風である湖風が東風となって吹きつけ、比叡の山々の影響で上昇し、湖西に雷雨をもたらす雷雲なのです。

龍谷大学 滋野 哲秀

— 第7章 —

琵琶湖と生き物

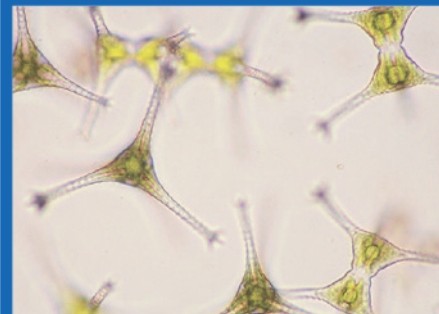


©びわこビジターズビューロー

琵琶湖の水鳥



ヨシ原



琵琶湖の植物プランクトン
(スタウラストルム)



ビワコオオナマス